

 **KEIWA**
COLLEGE REPORT

敬和学園大学と地域社会をつなぐコミュニケーション誌
敬和カレッジレポート

第76号 October 2013

発行/敬和学園大学後援会 敬和学園大学広報委員会

Close up

「私の家族」

英語文化コミュニケーション学科 山崎 由紀

大学の地域貢献「夏のボランティア活動」

夢の実現を目指して「教職課程・社会福祉士課程合宿」

キャリア開発/敬和×日報「Newsナビ」

秋のオープンカレッジ「写真の町シバタ」

敬和祭「It's up to you. ~あなた次第~」





〈まちカフェ・りんく〉
 新発田市諏訪町 1-3-21
 Tel 0254-24-6588

まちカフェ・りんく シャッターアートに挑戦

夏休みを利用し、まちカフェ・りんくの学生スタッフが、シャッターアートに挑戦しました。

まちカフェ・りんくの営業は、月、火、木、金、土曜日の9時30分から17時、営業終了後と週2回のお休みの日には、シャッターが閉まります。このシャッターを華やかにして、まちカフェの宣伝とまちの活性化につなげるのが今回の目的です。

4日間かけて描いた学生たちのアート作品、新発田観光と兼ねて、ぜひ見に来てください。

もくじ CONTENTS

Close up	1
「私の家族」英語文化コミュニケーション学科 山崎由紀	
大学の地域貢献「夏のボランティア活動」	4
夢の実現を目指して 「教職課程・社会福祉士課程の合宿」	6
授業科目「キャリア開発」のご紹介	8
3年生の保護者との就職懇談会のご報告	
インターネット番組 敬和×日報「News ナビ」 ..	9
教養講座 戦中の日本人・日系人差別を考える	9
オープンカレッジ「写真の町シバタ」を開講	10
第23回敬和祭 「It's up to you. ～あなた次第～」のご案内 ..	11
同窓会リレー・エッセイ [㊟]	12
「多面的に考え、対応する力」中山巧 (7期生)	
キャンパス日誌 (7月～9月)	13

〈表紙写真〉
 まちカフェ・りんくの
 シャッターアートが完成!



私の家族

不思議とホームシックにかかったことがありません。若いころから長い休みには家に落ち着いていたためしがありませんでした。一〇年以上、留学先のアメリカで暮らしていた間も、この先どこで暮らしていくかは、できるだけのことをした上で神様にお任せしようと思っていました。

自分なりの努力はしてきたつもりでしたが、自分に自信があった訳ではありません。留学当初は泳ぎ方を知らないのに海に飛び込んでしまったのではないかと日々思いました。焦燥がありました。落ち込んだり、悩んだりはしませんでした。思ったとおりの結果とならなくても、結局は自分にとって最善の道を神様が拓いてくださったということ。それまでの経験で確信に近づいていましたし、口下手な家族が明確に言わずとも応援してくれているを感じていました。大事なのは自分で一歩踏み出すことだけでした。

●家族のような恩師や友人

恩師や友人にも恵まれました。アメリカの母校の大学院歴史学専攻課程は、男性の多い少人数の社会でしたが、アドバイザーのうちの一人は女性でした。尊敬できる素晴らしい人生

の先輩です。働いている大学院生も多くいました。小さいながらも多様な社会で、日本人は私ひとりでした。大学にいても、若い父や母、兄たちにとつての「放っておくと心配な娘・妹」に思われていたような気がしますが、さすが、普段は何も言ってくれないのです。「困ったな」と思うころになると、さりげなく声がかげられ、手が差し伸べられました。相手の必要を先回りして察知できる心遣いでした。そんなさり気ない思いやりは家族のようにも思えましたし、一方で、他人に対して家族のように振る舞える格別な気遣いや友情のあり方というものを彼らの行動を通じて学びました。

暮らしていたワシントンの町で、日系人の方に最初に引き合わせてくれたのは、アメリカ史専攻の同期で、もう一人の留学生だったポーランド人の神父様でした。ポーランドの教会から派遣されたこの友人が、司牧にあたっている教区に長く暮らす日系人の女性がいらっしゃるといいます。現在は九〇代となられたこの女性との出会いが、私の留学生生活を一変させました。

Close up

英語文化コミュニケーション学科

山崎 由紀



●大おば様と研究テーマとの出会い

長尾ジュリアさんはカリフォルニア生まれの日系二世です。戦前、大学に入る前の教育をご両親の故郷の山口県で受けていらっしやるので、日本語も英語も母国語とされています。第二次大戦中の強制収容所の中で、ロサンジェルスの日系人宣教にあたっていたカトリックのメリノール会の司祭やシスターと出会い、収容所の中で洗礼を受けました。それ以降、大変なご経験の連続だったことを感じさせないほど、前向きに明るく、神様と共に人生を歩んでこられたご様子と、お年を想像させないお元気で、私はジュリアさんが大好きになりました。ジュリアさんもまた娘が増えたかのように、あたたかく接してくださいました。ジュリアさんのご経験をうかがい、私はこの日系人宣教のことを詳しく知れた



教会でのアジア系アメリカ人のイベントにて
右から3人目が長尾ジュリアさん

いと思うようになりました。史料の多くはニューヨーク州のオシニングという町にあるメリノール会修道院本部の所蔵なのですが、それから間もなく、ジュリアさんは「バザーのお手伝いに行くから一緒にどう？」とワシントンから五時間のドライブに誘ってくださいました。日系人に対する宣教の歴史を初めて本格的に調査したのがこの時でした。やがてこの研究は、アメリカにおける日系人宣教と、戦前戦後と続けられた日米間の草の根の平和運動を、カトリック教会と日米の信徒を中心に論じる博士論文になりました。平和運動には教派を超えたクリスチャンの日本人が関わっていました。ジュリアさんとの出会いがなければ始まらなかった研究です。ジュリアさんをアメリカの大おば様と慕う私にとってこの研究は、自分にとってのもう一つの「ファミリー・ヒストリー」でもありました。

●コミュニケーションとリベラルアーツ

同期のポーランド人のスタン神父様がジュリアさんを紹介してくれたのは、私とその後の研究テーマをどうするかで悩んでいたころでした。このような体験を思い出すたびに、「コミュニケーションとは何だろう」という疑問に何度も立ち戻ります。歴史家としての学問上のコミュニケーションは、過去との対話でした。史料を読み進めるうちに、それを書き遺した人物にはひとかたならぬ思い入れがわきました。過去に書かれた文書の



スミソニアンでの講演会にて
ダニエル・イノウエさんと

背後にある人々の意志を受け止め、自分がそれを何らかの形で次世代の人たちへと伝えていくこともコミュニケーションであり、なすべき仕事と考えています。

一方で、同じ時代を共に歩む人たちとのコミュニケーションには、言葉以外にも互いの意思疎通のために介在するものがあるように思えました。スタン神父様やジュリアさんのように、思いやりと言う言葉が物足りなく思えるほど先回りして、相手の立場を理解した上で行動する留学時代の友人たちを見てみると、さまざまな立場や物の見方を自分の中に蓄積して、他者の人生の追体験を重ねる必要を強く感じます。彼らは自分の人生だけに基づいた思い込みから解放されて自由な心で思考する「自由学芸(リベラルアーツ)」の本場で、大学時代にコミュニケーションの前提を叩き込まれてきたので

しょう。

この研究をきっかけに、スミソニアン協会の国立アメリカ史博物館で日系人の展示を担当する部署での仕事も経験できました。昨年末に亡くなられたダニエル・イノウエ氏（前ハワイ州選出民主党上院議員）のスミソニアンでの講演会の折、イノウエ氏とお話しさせてくださいたいことは、忘れられない思い出です。ケンさん（イノウエ氏の愛称）は長くワシントンにあって、常にハワイと日本を心配している方でした。第二次大戦中、日系人部隊の兵士だったケンさんには、ハワイと日本の人たちが皆ご自分の家族のように思っていたのかもしれない。

●喪失感から見つめ直した大切なもの

二〇〇一年九月一日の同時多発テロの朝、私は被災した国防総省（ペンタゴン）から二キロほど離れた自分のアパートにいました。当時のワシントンは東日本大震災直後の日本とよく似ていました。数日の喪失感の後、それまで見たことのない連帯を人々は示しました。ほとんど報道されませんが、ブッシュ政権によるアフガニスタンとの戦争に反対し、負の連鎖を断ち切ろうとデモや集会などをたびたび催したのは、他ならぬ被災地であるニューヨークとワシントンの住人たちでした。

誰もが感じたように、私も「明日が確実に与えられるわけではない」という当たり前のことを今更のように突きつけら

れる思いで日々を過ごしました。大切なものを見つめ直す貴重な機会でした。日本での震災後、それを「家族」と考えた方は多かつたのではないのでしょうか。二〇〇一年秋の私もそうでした。その時私の周りにいてくれたのは、アメリカでできた新しい家族でした。同時多発テロ後、それまで以上に友人たちと行き来する日常となりました。私を「娘」と呼んでくださる「アメリカの両親」もいつも気にかけてくださいました。

ワシントンから敬和学園大学に来たのは二〇〇八年四月のことです。それまで縁のなかつた新潟ですが、ここでも私は先輩や同僚の教職員、学生たちという新しい家族に恵まれました。行く先々に家族があるので、ホームシックになるはずがありません。新発田市、聖籠町、



2002年秋、アパートの庭に友人たちを招いてアメリカの家族たち

新潟市の皆様にもあたたかく迎え入れていただいていることを感謝しています。

マザー・テレサは「誰に対しても何者にもなれないほど深刻な病はない」と言っています。ホームシックにはならず、に済んだようですが、こちらの病気は大丈夫でしょうか。さまざまな場所で家族に恵まれたと書いてきましたが、そうすることを許してくれた本当の家族の支えがなければ、これほど沢山の方たちとのかけがえのない出会いは得られません。自分の家族にとって、私が家族と慕う方々にとって、自分が「何者か」であるためにはまだまだ研鑽が必要ですし、このことを考えるたびにアメリカの「家族たち」がしてくれたいことを思い起こします。ですが、日々「リベラルアーツ」の意味を見直しながら歩む同僚たちと共に過ごせる敬和学園においては、私もまだ学生たちと共に、自分のなすべきことを問い、学び続けることができそうです。

Profile

山崎 由紀 准教授 プロフィール

●最終学歴

米国カトリック大学大学院
歴史学部博士課程 修了
(PhD. in History)

●こんな授業をしています

移民や宗教といった現代アメリカをとりまく問題を中心に、人々の視点に立って歴史的事象の原因を考えます。「歴史と社会を見る視点」を養い、今を生きる私たちが歴史に学ぶための歴史学をめざしています。

11月8日(金) 山崎由紀先生の講演があります。詳しくは9ページをご覧ください。

大学の地域貢献

敬和学園大学は開学以来一貫して学生のボランティア活動を奨励しています。建学の理念にボランティア精神の涵養を掲げ、「ボランティアする大学」として、全学が一斉に「ボランティアウイーク」や「ボランティアデー」での活動に取り組んできました。

この精神は今も変わらず、ボランティアという名称を使わなくとも、サークル活動の一環として休日に福祉施設に演奏に出掛けたり、ダンスを披露したりする学生団体があります。また、学内で定期的に行われている東日本大震災復興支援のための募金活動にも、大勢の学生がすすんで協力を申し出てくれます。その活動が趣味の延長線にあったとしても、そこには誰かのために自分にできることをしたい、喜んでいただきたい、そのことで社会をよりよいものとしたいというボ



Keiwa HOPE 募金活動



学長も募金に協力



サークルの踊りで盛り上げ



サークルの演奏で盛り上げ



手作りのお菓子でおもてなし

小さなことからコツコツと

英語文化コミュニケーション学科四年

貝沼 里保



私のボランティア活動は、サークルでパフォーマンスすることから始まりました。ボランティアは根気のいる大変なことですが、どんな小さなことでもそれはボランティアの第一歩だと感じました。

学生や先生方によるボランティアグループ「Keiwa HOPE」では、手作りのお菓子やパフォーマンスで募

金してくれる方をもてなす活動を定期的に行っています。この活動に参加し、お菓子をつくったり、パフォーマンスすることも、小さなボランティアなのだと感じることができました。最近、新発田の東日本大震災避難者相談所で開催された、子どもたち対象の工作イベントに参加しました。工作を通して心を通わせ、のびのびとした環境で一緒に活動できると、そこでは、ただ工作をするのではなく、避難してきた子どもたちが少しでも居心地よく過ごせるような環境づくりや、人と人との関わりや協力することの大切さを改めて感じました。

東日本大震災から三年、一人ができることは小さなことかもしれませんが、私はその小さな積み重ねをこれからも手っ取りいきたいと思います。

夏のボランティア活動



聖籠町での子ども英語教室



福祉施設のお祭り手伝い



仙台七夕まつりボランティア



ふれあいパラエティ準備



車椅子誘導の練習

ランティアアマインドがあるのです。

期末試験が八月下旬までであり、その後一週間の集中講義が開講されるため、学生たちの夏休みは八月半ばからようやく本格化します。そんな中でも、クラス単位で「夏休みにALITと遊ぼう」というプログラムや新発田日本語教室で行われた外国につながる子どもたちの宿題を手伝うプログラム、福島県から新発田市に避難してきている子どもたちの工作イベントのお手伝い、そして震災復興支援の現地活動に参加した学生たちがいま。九月に入ってから、敬和祭前日に福祉施設の方をお招きする「ふれあいパラエティ」の準備のために大勢の学生が作業を続けています。さまざまな活動と地域との交流を通して、学生たちはそのボランティアアマインドを磨いています。

(ボランティアセンター 池田)

はじめの一步

国際文化学科四年

川上 千尋



私は大学に入ってから今日までいろいろなボランティア活動に取り組んできました。そのきっかけとなったのが東日本大震災でした。

とは言うものの、最初はボランティアに取り組みたい気持ちはあっても、なかなか行動に移すことができませんでした。それは「一人」という壁があったからです。私一人だけでいい何

ができるのか？と考え、悩む日々が続きました。しかし、毎日の報道で被災地の実態を知るうちに、一人でも現地に行ってできることに取り組もうと決意しました。

そしてついに今年の八月、仙台七夕まつりのボランティアに行ってきました。一泊二日のイベントスタッフとしての参加でしたが、初めて震災後の東北を実際に見て、感じ取ることができました。ボランティア活動は、一歩踏み出してしまえば、新しい世界を体験できるよい機会となります。まだボランティアを体験したことのない方がいたら、ぜひ積極的に挑戦して欲しいと思います。

被災地の皆さまが一日でも早くEverybody Smileyになれるように…。

夢の実現を目指して

一カ月以上ある大学の夏休みは、学生たちにとって、普段できないことにチャレンジする貴重な期間となっています。留学やボランティアに取り組み学生たちがある一方で、卒業後の夢を実現するためにがんばる学生たちもいます。

敬和学園大学には、中学・高校の英語、中学の社会、高校の地理歴史・公民の教員一種免許を取得できる「教職課程」、そして、社会福祉の分野で相談援助を行う専門職である社会福祉士の国家試験受験資格を得ることのできる「社会福祉士国家試験受験資格課程」があります。

教職課程の二年生は、八月に国立妙高青少年自然の家で二泊三日の宿泊研修を行い、キャンプや野外活動をとおして、教師に求められる主体性と協調性、そしてリーダーシップなどを養っていきます。自然の中での活動は、学生も教職員も、自分に素直になることができ、普段の生



ネイチャーゲームを控えての安全研修



ネイチャーゲーム（目隠しトレイル）



野外炊事（カレーライス）



キャンドルセレモニー



最終日のアクティビティ

仲間との心の距離を縮めた三日間

英語文化コミュニケーション学科 二年

河内 帆乃香



私たち教職課程二年生は、八月二六日から二八日にかけて国立妙高青少年自然の家に行ってきました。

初日はメンバーの緊張をほぐすためのゲームをしました。信頼関係の土台をつくり、普段は知らない一面を見ることで全員の心の距離が近づきました。次に、翌日の準備として安全研修を行いました。あらゆる事態への対処法を

学び、実際に起こった場合の心構えができました。

二日目はまず、自然との触れ合いを目的としたゲームやハイキングをしました。その活動を通して、五感を使った貴重な自然体験ができました。その後は、野外炊事をしました。役割分担をすることによって、自分の仕事に責任を持ち、お互い声をかけあって作業を進められました。その結果、美味しいご飯とカレーが完成しました。夕方からはキャンドルセレモニーを行い、お互いの思いを語り合いました。学生同士だけでなく先生方の新たな一面も見ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。

研修を通じて、計画実行の難しさ、団体行動における信頼と責任を持った行動の大切さを学ぶことができました。

教職課程・社会福祉士課程の合宿



模擬試験に取り組む



1日目終わりの懇親会



OB・OGからのアドバイス



試験に向けた心構えを確認



みんながんばりました

活では味わえない一体感を持つことができるようです。この合宿後、学生たちは見違えるほど連帯感、教職への意識が高まり、三年生からはじまる教育実習、そして四年生での教員採用検査にむけて取り組んでいきます。

社会福祉士国家試験受験資格課程の四年生は、一月の国家試験受験を控え、日々受験対策をすすめています。普段は、各自での学習が中心ですが、九月に「社会福祉士国家試験対策講座」を開催し、同じ志を持つ仲間たちと学びを確認し合い、卒業した先輩の実体験を伺うことで高いモチベーションを得て、試験対策に一層力を入れるきっかけとしています。そして多くの卒業生たちが、リベラルアーツ教育と専門教育とによる、幅広い教養と高い専門性を確保した社会福祉士として、各地の福祉施設や社会福祉法人、福祉関連企業で活躍しています。

強い気持ちを持って臨む国家試験

共生社会学科四年
鹿島 遥



九月二、三日に行われた社会福祉士国家試験対策講座に参加しました。まず一日目は、模擬試験を受け、自分たちの弱点科目や得意科目を分析しました。二日目は、卒業生の方々から社会福祉士国家試験合格までの道のりをお聞きし、先生方からは、仕事内容や国家試験に向けての心構え、勉強方法を具体的に教えていただきました。

私は受験勉強を行う際、はじめは、何から勉強すればよいかかわからず、頭の中がいっぱいいっぱいになってしまっ、自分の弱点科目や得意科目がなんなのかすら把握できていない状態でした。しかし、先輩方からのアドバイスを聞くことで、とにかく書いて覚えること、教科書にある基礎的な知識を整えていくこと、そして過去問題集をくり返し行い知識を確実なものにすることが、自分の苦手、得意科目を見極めることにつながるのだとわかりました。また、今回の講座を受講して、「どうしても受かりたい」という強い気持ちで受験勉強を継続していく上で一番重要になるのだと改めて感じました。これから受験まで残り数ヶ月間となりましたが、この思いを忘れずに受験に臨みたいと思います。

授業科目「キャリア開発」

将来のために今やることを明確に

「キャリア開発」の目的は、自分の将来とキャリアを客観的に見つめ、自分にあつた仕事に就くための手助けとすることです。内容は、「働くとは何か」という動機づけ、新聞を読む習慣の大事さ、業種と職種の違い、業界研究と発表、筆記試験対策講座、自己分析と多岐にわたります。特に好評だったのは六月五日のOB・OG体験談でした。公務員、マスコミ、ホテル業、流通業、社会福祉法人で働いている先輩の熱い就職活動体験談や実際の仕事内容に学生たちは圧倒されています。ロールモデルのメッセージを聴くことで将来の夢を膨らませ、今やるべきことの動機づけができたようです。

(就職委員長 松本)



OB・OGとの就職懇談会

現場を意識できる実践的な学び

国際文化学科三年
鷲尾 俊弘



大学三年生になり、私は就職に対して漠然とした不安を抱いていました。最近の就職難は嫌というほど知っており、それにも関わらず、何から手をつけたらいいのか分からない状態だったので。

「キャリア開発」の授業では、就活サイト「マイナビ」「リクナビ」の担当者の方から、大学三年生の過ごし方を教えていただきました。また、自分にあつた仕事を見つけるための、業種研究と自己分析の大切さは、グループワークと発表を通して、痛いほど分かりました。毎週の授業を通して、不安に駆られているよりは、キャリアサポート課に通ったり、業界地図やネットを使って企業を調べるなど、積極的に行動することが何より大事なのだと思います。

また、OB・OG体験談では、実際に企業で働いている敬和の卒業生の方々が、自らの就活体験と仕事内容について詳細に語ってくださいました。私も先輩方のように、自分の仕事に誇りをもって話すことができる、一人前の社会人になれるよう、努力していきたいと思えます。

大学・保護者が一体ですめる就職活動

三年次生保護者との就職懇談会

去る七月二七日、新潟グラウンドホールにて、三年次生保護者との就職懇談会を開催しました。

午前中は、松本就職委員長から全国就職戦線と本学の状況について説明がありました。説明では、保護者の皆さまに学生のサポーターでいて欲しいこと、広い業種・職種に目を向けること、転職のある仕事も躊躇しないこと、就職活動の波に乗り人生一回の新卒のチャンスを活かすことなどが力説されました。

午後の懇談会では、和やかな雰囲気の中、保護者とアドヴァイザーとで、家庭や大学での学生の様子について情報交換が行われました。(就職委員会)



松本就職委員長が就職状況を説明

敬和×日報「Newsナビ」

新潟日報社と一緒インターネット番組をしています

知らない新潟を発見し、届けたい

六月三日からUstream番組「敬和×日報『Newsナビ』」がスタートしました。新潟日報社の本社ビル「メディアアシップ」から、学生MCが、記者や編集論説委員の方々に最新のニュース記事の解説を伺い、学生たちの手でライブ番組を配信しています。学生たちは、この番組を配信することを意識し、普段からニュースへの関心を高めるようになってきました。新潟日報社の皆さんにとっても、新聞やニュースに対する若者の関心を知るよい機会になっているようです。隔週月曜日一九時四十分からの配信です。配信後の動画は、YouTubeにも掲載しています。「敬和×日報『Newsナビ』」を検索し、ぜひご覧ください。(国際文化学科 一戸)

一戸先生は、新潟日報社の「ソーシャル編集委員」となり、ウェブサイト「新潟日報モア」内で、ブログ「新潟ソーシャル時評」を投稿しています。新潟日報紙面と、ソーシャルメディアで人々が語る内容と比較し、独自の視点でニュースを分析しています。

※新潟日報モアは登録制で、新潟日報購読者は無料でご覧いただけます。



国際文化学科 年

小池 まどか

今まで知らなかった新潟のことを、この番組に出演し一番身近で学んでいます。これまでの配信で印象に残っているのは、新潟のアニメ、漫画についての回です。漫画家さんの中には新潟出身者がたくさんいて、有名な作品が新潟から多く生まれているのですね。新潟のまだまだ知らないところをこれからも発見し、見ている方々に届けていきたいです。



MCも配信も学生が担当しています

過去に学ぶ歴史学

戦中の日本人・日系人差別を考える

敬和学園大学では、新潟県立図書館、いがた産業創造機構と共催で、「第二次大戦期・大戦後の在米日本人と日系人」をテーマに、本学准教授の山崎由紀先生を講師に教養講座を開講します。

この講座では、太平洋戦争前の在米日本人・日系人に対する差別問題や、戦争中の強制収容について、アメリカ社会における二〇世紀前半の差別意識の形成と、日系人を中心とした戦後補償の運動を中心に考え、民主主義・人権の意味を問い直します。日本・ハワイ・アメリカ本土を往来した先人たちに加え、戦争に翻弄された南米への日本人移民の経験を知ることが、国境を越えた人の往来が盛んな現代の日本社会を考える上でも大切な視点を与えてくれます。今、歴史を作っている一員として、私たちがなすべきことを一緒に考えていきたいと思います。(入試委員会)

日時 十一月八日(金) 一五時～
会場 新潟県立図書館 大研修室
参加費 無料

〈お問合せ・お申込み〉

敬和学園大学 広報入試課

☎〇二二〇・二六・三三三三七

※本誌巻頭特集は、講師の山崎由紀先生の執筆です。

学びの秋 オープンカレッジを開催

「写真の町シバタ」、写真がシバタを語ります

春のオープンカレッジ「加治川の桜」に続き、この秋、シバタアーカイブス研究会と共催で、二回にわたって写真をテーマにした講座を開催します。

一〇月一七日は、「ゾウの洋子と月岡動物園の思い出」がテーマです。かつて月岡動物園の人気者だったゾウの洋子は、今も千葉県のゾウの動物園で元気に過ごしています。当時の写真と最新の映像を合わせて、講師の杉山義光氏（脚本家）がご紹介していきます。

一〇月一四日には、「イベント『写真の町シバタ』を終えて」をテーマに、一〇月一日から三十一日までの一ヶ月間行われるプロジェクト「写真の町シバタ」



千葉県で元気に活躍するゾウの洋子

について、赤松里美子氏（写真の町シバタ実行委員長）を講師に振り返っていきます。「写真の町シバタ」は、市内各所に一昔前の街の景色を記録した写真を展示し、新発田市内を一冊のアルバムのようにするプロジェクトです。次の世代に「街の記憶」を伝えてゆくことを目的にスタートし、今回で三回目となるものです。

どちらの講座も一八時から二〇時、定員五〇名、ワンドリンク付きで参加費五〇〇円となります。場所は新発田学研究センターとなります。

また、この期間、卒業生の玉木裕介さんが友人と二人で個展「二人展〜玉木裕介×前田和也写真展〜」を開催します。こちらは、一〇月六日〜一四日、新発田学研究センターを会場に行われます。

写真たちが語るシバタの記憶、たくさんの方の皆さまのご参加お待ちしております。

（新発田学研究センター長 神田）

〈お問合せ・お申込み〉

敬和学園大学 広報入試課

☎〇二二〇・二六・三三六三七

新発田学研究センター

Tel.〇二五四・二六・六〇三八

オープンキャンパス終了

推薦入学試験がはじまります

六月から始まりましたオープンキャンパスも全四回を盛況のうちに開催できました。新企画「女子会」は、本学のフレンドリーな雰囲気をお届けするよいイベントとすることができました。

一〇月二十八日からは推薦入試（第一期）の出願受付が始まり、一〇月一六日に、指定校推薦入試（一・二）、公募推薦入試、スポーツ推薦入試を実施します。指定校推薦入試では、今年も特待生特別選抜を実施します。評定平均値四・〇以上の高校生を対象とし、小論文と面接で評価します。特待生として採用された受験生には授業料全額または半額が免除となります。

また、スポーツ推薦入試では、本学の強化スポーツ種目（バドミントン、アーチェリー、テニス、ラグビー）で優秀な成績を収めた受験生を対象に選抜を行います。こちらもスポーツ特待生制度があり、授業料等免除のチャンスがあります。入学後は、実績のある監督の下、全国大会で活躍する先輩たちと一緒に高いレベルでの活躍を目指します。

〈お問合せ〉

敬和学園大学 広報入試課

☎〇二二〇・二六・三三六三七

第三回敬和祭のご案内

It, support you, あなた次第

今年度のテーマは「It, support you. あなた次第」です。敬和祭に来てくださる皆さま方に、それぞれの楽しみ方で心ゆくまで楽しんでいただきたいという願いを込めました。

一〇月一九日(土)には、夜回り先生として有名な「水谷修氏講演会」が同窓会主催で開催されます。また、二〇日(日)には、二〇一〇年度キングオブコント優勝の「キングオブコメディ」さんによるお笑いライブ&抽選会を行います。そのほか、敬和祭を目標に練習を重ねてきた各サークル・団体による公演や演奏、留学生によるエスニック料理をはじめとするバラエティ豊かな屋台が並びます。外国語スピーチコンテストでは、地域の皆さまが日頃の語学学習の成果を発表します。高校生向けの進学相談会も同時開催し、盛りだくさんの二日間です。

また、両日とも同窓会のご協力をいただき、エアー遊具(フワフワパノラマ ジャイアントベア)をご用意します。どうぞ小さなお子さま連れの方々もお気兼ねなくおいでください。学生一同、皆さまのご来場をお待ちしております。

末筆となりましたが、ご協賛いただきました皆さま、支えていただいております地域の皆さまや教職員の皆さまに厚く御礼申し上げます。(敬和祭実行委員会)

2013 敬和祭スケジュール

月日	時間	企画
10月18日(金)	13:30~16:00	敬和ふれあいバラエティ
10月19日(土)	11:00~16:00	屋台・教室展示
	10:00~13:00	FMしばた生中継・収録
	10:00~16:00	茶道部による茶会
	13:00~14:30	外山節子客員教授による英語で遊ぼう!
	11:30~12:00	アカペラサークルによる公演
	12:00~12:30	アニメ研究部による「オタクが踊ってみた」
10月20日(日)	12:30~13:30	ブラスバンド部による公演
	14:00~16:10	同窓会企画「水谷修氏講演会」
	11:00~16:00	屋台・教室展示
	11:30~17:30	学生ライブ
	10:50~14:00	外国語スピーチコンテスト
	12:30~13:00	国際ダンスサークルによるダンス公演
	13:00~13:30	Free スタイルズによるダンス公演
	13:30~14:00	チアリーダー部によるダンス公演
ライブ14:00~ 抽選会14:20~	キングオブコメディお笑いライブ&抽選会	



10/20(日)のゲスト「キングオブコメディ」

学事予告

- ◆一〇月◆
 - 一日 新潟市北区オープン・カレッジ①
 - 三日 履修登録確認期間(九日まで)
 - 五日 共生社会学科公開学術講演会
 - 六日 新潟市朝市十二斎市
 - 八日 新潟市北区オープン・カレッジ②
 - 一五日 学費後期納入最終日
 - 一七日 新潟市オープン・カレッジ③
 - 一八日 ふれあいバラエティ
 - 一九日 敬和祭(二〇日まで)
- ◆十一月◆
 - 二〇日 外国語スピーチコンテスト
 - 二三日 新潟市オープン・カレッジ⑤
- ◆十二月◆
 - 二日 相談援助実習(体験実習)
 - 九日 一・二年次生保護者との懇談会
 - 二一日 相談援助実習②(二三日まで)
 - フィールド・トレーニング(二二日まで)
 - 一三日 企業との就職懇談会
 - 一四日 新潟市オープン・カレッジ⑥
 - 一六日 推薦入学試験(第一期)
 - 二〇日 新潟市オープン・カレッジ⑦
 - 三〇日 高校・大学合同研修会
- ◆二〇一四年◆
 - 二五日 冬期休暇(一月三日まで)



多面的に考え、対応する力



二〇〇〇年度卒業
中山 巧

敬和学園大学で過ごした時間。それはかけがえない時間であり、今の自分を決定づけた有意義な四年間でした。

出席率や取得単位数など、決して褒められるものではなく、学生の自分とはむしろ対極の時間の使い方をしたかも知れません。趣味やアルバイト、夜遊びに明け暮れ、時折大学に来ては学食でおしゃべり…。そんな学生でしたが、なん・と・か、四年生になったある日、今の自分を形づくる決定的な出来事が起きます。

昼下がりの松本ゼミ。前日の夜遊び疲れでうたた寝しつつある私に突然、教授からの質問。急なフリに対応しきれない私は、他のゼミ生の大半とは逆の答えをしてしまいます。しかし、そこで教授の一言。「そつという見方もありますね。実は私もそう考えはじめています。」これぞ、リベラルアーツ教育? 「話を聞いていましたか?」と来ると思いきや…。です。物事はある単一方向から見ればかりでは真理を出せない。幅広い学びから視野を広げ、教養を深め、心を豊かにし、他人を思いやることのできる人間を育成できるか。そして、多くの出会いの中から、

いかに自分を深く知ることができるか。現在、私は敬和学園大学のある新発田市の職員として働いていますが、この体験学びは今にも活きています。

行政は、住民の皆さまから寄せられるさまざまなご意見を踏まえた上で、住みよいまちの実現に向け、今できる最善の手段を選び出し実施する役割と責任があります。そこで必要となる能力が物事を多面的に見る力、相手の立場に立つて考えることができる精神です。それらの基礎を形成するには充分な時間、気付きや学び、多様性を認める環境が敬和学園大学には備わっていることを、この文章を書きながら、改めて感じています。

今後は、母校のあるまちの自治体職員として、共に地域に愛されるよう関係をさらに深めていければと考えています。



担当する業務にはこんな役得も!
食の循環しばた応援団である服部幸應氏と
(右が中山さん)

寄付者ご芳名

(二〇一三年八月二六日現在、敬称略)

〈一般〉

茅原 明子、藤井 研一、
本間 進一、星名 忠直、
日下 満、槇坂 宣弘、
村山 国弥、野本 寛子、
大川 聡、和田 進

〈卒業生・在学生・保護者〉

大久保 秀樹(一〇)、吳賢欄(三)、
水野 元喜(二四)

〈学園関係〉

鈴木 佳秀、
後援会

(一) 内、漢数字は期生、算用数字は回数

皆さまからのご寄付は、学生生活の充実に活用させていただきます。

〈郵便振替口座〉

〇〇六三〇・九・一九八九六
敬和学園大学

キャンパス日誌

7 July

- 3 教授会
ボランティア論・学習セミナー
第1部 映画「バレンタイン〜掙」
第2部 講師 岩附由香 ACE 代表
演題「児童労働のない未来に向けて
私たちにできること」
- 4 長岡明德高校大学見学（1年生 32名）
- 5 チャペル・アッセンブリ・アワー⑪
説教 加藤順 事務局長
「いと小さな者の一人」
講話 三村修 日本基督教団佐渡教会牧師
「わたしメッセージで話そう」
- 6 聖籠町キッズ・カレッジ①（37名）
講師 趙晤衍 教授「夏休み子ども陶芸教室」（写真①）
- 11 小千谷高校大学見学（2年生 33名）
- 12 チャペル・アッセンブリ・アワー⑫
説教 宗像亮二 日本基督教団五泉教会牧師
「和解の道を探る」
講話 細田あや子 新潟大学人文学部教授
「光と闇の図像学 - キリスト教美術への招待 -」
- 19 チャペル・アッセンブリ・アワー⑬
説教 大澤秀夫 宗教部長
「木には希望がある」
講話 大藪順子 フリーランスフォトジャーナリスト
「どん底から見える神の計画」
- 20 第1回社会福祉士模擬試験
聖籠町キッズ・カレッジ②（35名）
- 21 オープンキャンパス②
- 23 理事会
教職課程履修学生の発表会（写真②）
- 24 新発田南高校インターンシップ（2年生 2名、～26日）
- 26 チャペル・アッセンブリ・アワー⑭
説教 鈴木佳秀 学長
「信仰に生きるとは」
キリスト教音楽の受講者によるコーラス
- 27 大学オープン・カレッジ③④（84名、～28日）
講師 清水真砂子 青山学院女子短期大学名誉教授
「読むという冒険2
- 子どもの文学に描かれたおとな」
3年次生保護者との就職懇談会
（新潟グランドホテル、46名）
- 29 前期講義終了
- 30 前期末試験（～8月5日）
白根高校大学見学（1年生 37名）



8 August

- 1 五泉高校大学見学（1年生 79名）
- 5 教員免許状更新講習（48名）
北越高校イングリッシュセミナー
（2年生 77名、～6日、写真③）
- 6 夏期休暇（～9月18日）
前期集中講義①（～10日）
夏期特別休業日（～15日）
- 13 オープンキャンパス③ AO（1期）面談日①
- 18 前期集中講義②（～23日）
- 19 前期追試験（前期卒業対象者向、～22日）
- 21 職員研修会
- 23 教育活動アクティブワーク
（国立妙高少年自然の家、～28日）
- 26 再試験（前期卒業対象者向、～27日）
- 27 新発田まつり民謡流し
- 28 前期追試験（～30日）



9 September

- 1 オープンキャンパス④
AO（1期）面談日②
- 2 社会福祉士国家試験対策講座3（～3日）
- 4 教授会
- 6 AO入学試験（1期）合格発表
- 18 前期卒業式（写真④）
- 19 秋季入学式（写真⑤）
- 理事会
- 20 履修相談日
- 21 中学・高校生向け英語検定2級・準2級
一次・二次試験対策英語集中講座②（30名）
AO（2期）面談日①
- 24 後期授業開始、履修登録期間（～30日）
- 25 新潟市立関屋中学校上級学校訪問（1年生5名）
新潟市立小須戸中学校上級学校訪問（3年生8名）
- 27 チャペル・アッセンブリ・アワー⑮
説教 鈴木佳秀 学長
「野の花をみよう」
前期エッセイ・コンテスト受賞式
資格取得奨励奨学金授与式
- 28 AO（2期）面談日②



Gems in KEIWA

チャレンジ学生ファイル Vol.43

巡礼で感じたキリストの愛

英語文化コミュニケーション学科3年
アロンソ・ホアンマテオ



ブラジルで巡礼中のアロンソさん

私は7月末にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた「世界青年の日」に参加するために日本を旅立ち、約80名の青年とブラジルを巡礼してきました。

この巡礼で私たちは自分たちの計画が毎日壊されていく体験をしました。手配していたバスは時間どおりに現れることはほとんどなく、さらには、運転手が大型免許を持っていないことが発覚し、警察に止められ、高速道路で朝の1時から12時間待たなければならない事態にさえなりました。しかし、神様は私たちの計画を超えるものを用意して待っていました。道路で待たされた日は寒さと夜の暗闇の中で不安に包まれていましたが、朝日と共に美しい山々に囲まれていることに気づき、神様に賛美の祈りを捧げることができました。そして、どこへ行っても私たちを快く迎え入れてくれ、貧しい中でも惜しむことなく全てを無償で与えてくれたブラジル人に、キリストの愛を明確に感じることができました。

この巡礼でキリストの愛が毎日力強く私たちの上に注がれる経験ができたことをとても喜んでます。

ウィリアムズ先生のコメント

One of Juanma's life goals is to travel to many countries, so his trip to Brazil was one step toward that objective.



ホアンマテオくんの目標の一つは多くの国を旅することです。このブラジルへの旅は、その目標への第一歩になりましたね。



敬和学園大学の最新情報

敬和学園大学

検索

www.keiwa-c.ac.jp

